

研究報告書

沖縄県立名護特別支援学校

I 研究主題

- 「生徒の学習意欲と主体性を引き出す取り組み」
- 個人目標と評価を意識した作業学習の工夫 -

II 研究主題の設定理由

本校は知的障害のある児童生徒を対象とした養護学校として設立され、北部地区の知的障害のある児童生徒の学習を担ってきた。現在は5障害種に対応した特別支援学校となり在籍する幼児児童生徒の障害の状態も多様になってきている。高等部においても、近隣中学校から入学してくる生徒の増加を受け、知的障害のある生徒の実態も多様化している。令和元年度には、軽度知的障害のある生徒を対象に職業自立を目指す産業コースを開設し、現在9名の生徒が在籍している。普通コースは生徒の実態に幅があり、卒業後福祉就労の場に進む生徒が多い中で、企業就労も進路選択の視野に入れていた生徒もいる。その一方で障害の程度が軽度であっても、基本的な生活習慣に課題のある生徒や働く意欲の希薄な生徒も見られる。

本校の卒業生もそのほとんどが企業就労、福祉就労の別を問わず就労を中心とした生活を送る。このことから、特別支援学校の高等部には、卒業後の就労を中心とした社会参加をより豊かなものにするための資質・能力を育む場としての役割が期待されていると言える。改訂学習指導要領が、キャリア教育の一層の推進を示したことを加味するならば、高等部の果たす役割はいつそう大きいと言える。

ところで、知的障害のある生徒を対象とする高等部において、その中心的な学習形態となるのが作業学習である。本校は普通コースに週10時間の作業学習を設け、教育課程の展開している。こうした重要な役割を果たす作業学習ではあるが、働く意欲を育む授業が意図的・組織的に行われてきたかと言えば、必ずしも十分ではなかった。各作業班では、それぞれの指導の工夫と授業の改善の取り組みが行われてきたが、働く意欲に焦点を当てた授業改善の研究を全作業班で取り組んだことはない。そこで、本研究では、卒業後の課題点を踏まえて、生徒の働く意欲を高める作業学習の在り方について検討を行い、授業改善を試みる。

改訂学習指導要領では、社会に開かれた教育課程の実現のために、学校が社会や地域の状況を視野に入れ、生徒たちが社会と向き合い、人生を切り拓いていくために求められる資質・能力を明らかにして教育課程を展開していくことを求めている。これを本校に置き換えて考えれば、卒業後の就労の場における課題点を踏まえて、主体的で対話的な深い学びによる授業改善を行っていくことの重要性を考え、本研究は作業学習を対象としつつも、研究を通して得た知見は、本校高等部教育課程全般に関わるカリキュラムマネジメントに寄与するものになり得る点でも意義があるものと考え本テーマを設定した。

Ⅲ 研究の内容

1 研究仮説

- (1) 毎時間教師と行う振り返り表や目標達成表を利用し、生徒自身の達成度を視覚化することで自分の取り組み状況も確認することができ、意欲的に作業に取り組むであろう
- (2) 自己評価と他者評価を比べ、自己理解に努め、自分の課題を理解し、改善に努めるための工夫をすることで主体性が増すであろう

2 研究内容

- (1) 生徒自身が自己理解に努め、自分の課題を理解し、その課題克服のために作業学習で何を取り組めばよいかを考え探求し主体性を育むことを目指した取り組み
- (2) 本校で掲げる就労や社会参加に必要な 15 項目を理解し、工夫・改善を行いながら自分の苦手を克服し、卒業後の就労に向けての資質や能力を身につけるための取り組み

3 研究方法

- (1) 作業学習での毎時間の目標設定（15 項目）を自ら行い、自己評価、他者評価で毎時間評価する。
- (2) 個人目標設定を行う上で生徒が目標設定しやすいための目標表の作成
- (3) 生徒が自己評価を行う上で具体的な評価基準の作成
- (4) 校外実習（2，3 年）での評価（外部評価）、生徒自身の自己評価の振り返りを行い、自己理解につなげ、今後の取り組みができるような支援方法。
- (5) 職員が考える本校の児童生徒の主体性の共通理解
- (6) 生徒アンケート、職員アンケートの実施

4 研究計画

月日	研修内容	具体的な取り組み
4 月 2 日	学部研修 グループ研修概要	研究の概要確認 研究計画について
5 月 8 日	研究討議	主体性について 職員アンケート
6 月 12 日	研究討議	アンケート集計・分析 生徒の実態把握 主体性について
7 月 10 日	研究討議	取り組み方法検討
8 月 24 日	全体研修会（講座） （中止）	外部講師によるキャリア 教育についての講演会
9 月 14 日	中間報告会	公開授業・報告発表会
9 月 18 日	研究討議	中間報告会を踏まえた指 導・支援方法の工夫
10 月 23 日	グループ研究担当者会議	最終報告会に向けての検

		討事項
11月13日	各班での取り組み 最終報告会準備	最終報告指導案について 最終報告書作成について
1月26日	最終報告会	研究授業・報告発表会
2月19日	全体研修	グループ研究まとめと今後の取り組み

5 研究の取り組み

(1) 本校生徒の卒業後の動向

本校高等部では中学部から進学してくる生徒に加え、近隣中学校から入学してくる生徒の増加を受け、生徒の実態が多様化している。このため卒業する生徒の進路は、一般企業就労、就労移行支援サービスの利用、就労継続支援事業所の利用、生活介護等福祉サービスの利用等、多様である。毎年企業就労する生徒が一定数いるものの、多くの生徒が就労移行支援サービス又は就労継続支援サービスを利用しており、こうした就労移行支援サービスで学ぶ生徒も含め、最終的に就労継続支援 B 型事業所で働く生活を送る生徒が多数を占めている。高校卒業後は卒業生のほとんどが働く場での生活を送っている。このことから、企業就労に限らず働くことに必要な資質・能力を学校で育成していくことが求められている。

卒業生では就労移行支援事業所、就労継続支援事業所 A 型、B 型に合わせて 49 名の卒業生が就労先として働いている。平成 27 年度から平成 30 年度までの卒業生で卒業後にすぐ一般企業就労（トライアル雇用含む）に就いた生徒は 21 名だが、その後 11 名の生徒が理由はそれぞれ異なるが 2 年以内で離職する結果となった。また就労移行支援事業所を経験して一般企業就労についた生徒もおり、現在も自分の仕事として勤めることができている生徒が 5 名いることから卒業後すぐに就労するよりも自分の力を考え就労移行支援事業所を経て一般就労につながりことも仕事の定着につながる事が予想される。

(2) 作業学習の意義と課題

作業学習は、作業活動を学習の中心にしながら、生徒の働く意欲を培い、将来の職業生活や社会自立に必要な事柄を総合的に学習する各教科領域を合わせた指導である。本校高等部では作業学習を自立と社会参加のための資質・能力を育む中心的な指導の場と位置づけ教育課程を展開している。普通コースでは 6 つの作業班（農耕園芸・木工・窯業・手工芸・クラフト・チャレンジ）を編制し、主に製品づくりを中心に据えた作業学習を行っている。また、産業コースではトータルクリーニングとアシストサービスの 2 系統の作業を設け、作業活動を学習の中心に置いた職業の授業を展開している。

生徒たちは年 1 回の販売に向けて、概ね前向きに作業学習に取り組んでいる。しかしながら課題も見られる。働く意欲が必ずしも十分に育っていない点である。これからの作業学習で自分の課題を見つけ、考え、克服に努めることが将来の就労に向けて必要な力になってくる。毎回の授業での個人目標設定や今日の作業学習の振り返りを行うことで自分の課題をきちんと理解し、課題解決に向け取り組める力が身につくのではないか。いずれ就労していく生徒たちの働く意欲の有無は就労の継続や就職の成否に大きな影響を及ぼすことになる。このことから学習意欲を高める作業学習を展開することが求められる。

(3) 授業改善の方法

今年度から各作業班統一した授業での目標設定、個人目標の確認、授業の振り返りを行うこととし、生徒自身での自主的な個人目標設定や活動の促しを行い、将来の自立に向けた取り組みになるよう各担当職員で言葉かけや支援を行い、生徒が自ら考え行動できる、働く意欲を育てる主体的な作業学習の実現を目指すこととする。

目標設定に関しては進路指導部と協力し、実習で使用している評価 15 項目を活用し目標設定を行うこととする。その内容で年 2 回ある実習で実習先評価と自己評価を照らし合わせ確認しながら自己理解に努める。

表 1 個人目標表の 15 項目

みだしなみ	あいさつ・へんじ	言葉遣い	報告・質問	対人関係
指示を受ける態度	責任感	積極性	集中力	体力
確実性	準備・かたづけ	巧緻性	指示の理解力	安全性

(4) 授業改善の取り組み

①各班における作業学習心得表の統一

作業学習開始時の各班でのミーティングで行っている作業学習の心得、あいさつ練習の取り組みを同じ内容や文章に統一（図 1）し、全生徒が内容を理解し、確認して作業学習に取り組む。

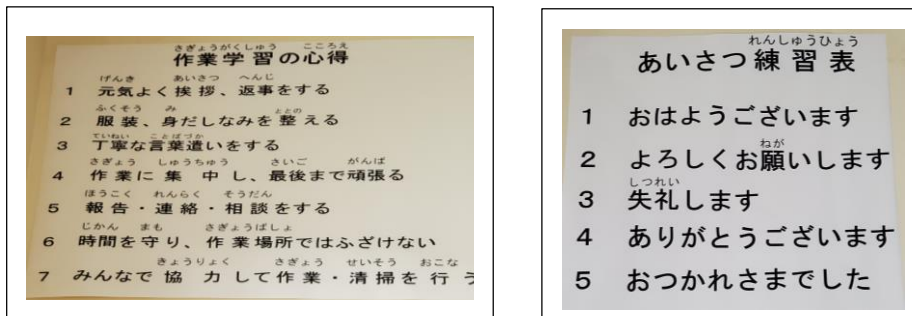


図 1 心得・あいさつ表

取り組み方法など各作業班の特性により多少の違いはあるが、仕事を行う上で必要なことを意識させることが大切だと考え内容を統一し取り組むこととする。

②個人目標の設定と自己理解

実習の評価表で使用している 15 項目を関連させ個人目標を生徒自身で立てやすくするために「個人目標表」（図 2）を作成し、その中から本時の作業学習での目標を自分で設定し担当教諭と確認しながら作業に取り組む。

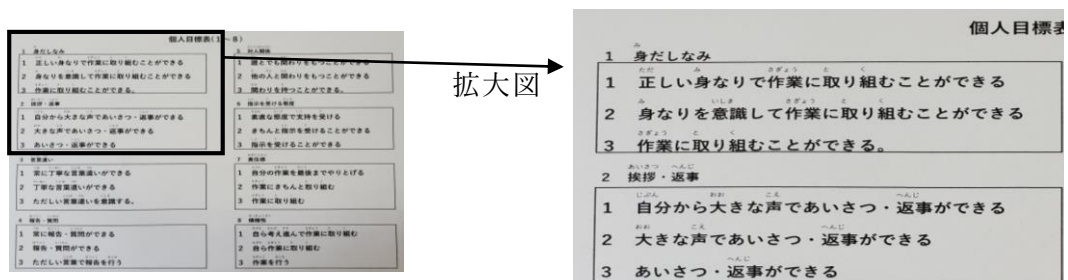


図 2 個人目標表

個人目標を設定するにあたり評価表の15項目を難易度別に3つに分け、生徒自身が目標を立てやすい方法を取り入れ、今日の作業での目標達成に向け何を意識して取り組むべきかを担当教諭と確認しながら、作業学習を行うことにより、より意識した学習に取り組める。

③自己評価と評価分類表を活用

作業終了後は担当教諭と今日の作業の振り返りを行い、自分で設定した個人目標の自己評価及び担当教諭からの作業の評価（他者評価）により、今日の作業学習での目標達成を確認する。目標達成は「よくできた」「できた」「もう少し」の3段階から評価をし、青、黄、赤のシールをはることにより（図5）、生徒自身で視覚的に評価を確認することができるようにした。

自己評価を苦手とする生徒も多く、今日の自己評価を出すことが困難な生徒もより具体的に評価基準を示した評価分類表（図3、図4）を活用することで自ら評価が行えるように取り組む。

1 身だしなみ

1 正しい身なりで作業に取り組むことができる

作業着を正しく着ることができている
上着もきちんとズボンの中に入れている
ベルトも正しくしめることができている
爪の手入れもできており、ハンカチ（タオル）も持っている
お風呂（シャワー）にも毎日入浴し清潔である
先生に身だしなみで注意されることがなく作業時間取り組めた

2 身なりを意図して作業に取り組むことができる

作業着を正しく着ることができている
上着もきちんとズボンの中に入れている
ベルトをしめることができている
爪も切り手入れができている
お風呂（シャワー）にも毎日入浴し清潔である
先生に身だしなみで1度注意されたが直すことができた。

3 作業に取り組むことができる

作業着を着ることができている
上着もきちんとズボンの中に入れている
ベルトをしめることができている
お風呂（シャワー）にも毎日入浴し清潔である
先生に身だしなみで注意されたが直すことができた

図3 「身だしなみ」評価分類表

7 責任感

1 自分の作業を最後までやりとげる

与えられた作業を最後まで取り組むことができた
自分から率先して次の作業を行うことができた
自分の道具をきちんとかたづけすることができた
最後まで清掃、かたづけを行うことができた
みんなと協力することができた。

2 作業にきちんと取り組む

与えられた作業に取り組むことができた
自分から作業を行うことができた
最後まで使用したものをかたづけることができた
最後まで清掃活動を行うことができた。

3 作業に取り組む

作業を行うことができた
指示されたことは行うことができた。

図4 「責任感」評価分類表

個人目標達成表

名前 (すけい)

1 身だしなみ	4/1	6/2	8/3	10/4	12/5	14/6	16/7	18/8	20/9	22/10	24/11	26/12	28/13	30/14	31/15
2 挨拶・返事															
3 言葉遣い	7/2	7/3	7/5	7/7											
4 報告・質問	7/1	7/13	7/14												
5 対人関係															
6 指示を受ける態度															
7 責任感															
8 積極性															
9 集中力	5/8	6/9	6/11	6/12	6/16	6/16	6/16								
10 体力															
11 確実性															
12 準備・片付け															
13 巧緻性															
14 指示の理解力															
15 安全性	4/4	6/5	8/7	8/8	8/8	8/9	8/9								

図5 個人目標達成表

IV 研究の成果と課題

I 成果

仮説の検証

- | |
|--|
| 1 毎時間教師と行う振り返り表や個人目標達成表を利用し、生徒自身の達成度を視覚化することで自分の取り組む状況も確認することができ、意欲的に作業に取り組むであろう |
|--|

個人目標表の活用により、生徒自身が自分の今の課題を設定しやすくなり、その中から達成目標を見出すことで、取り組むべきことが明確化し、向上心が芽生え、やる気につながり意欲的に学習に取り組めた結果が各作業班の取り組み内容から伺える。7月に行った「主体的、対話的深い学びについて」の職員アンケートを生徒の変化を確認するため再度行い次の項目をできている生徒の割合で評価をおこなった。(アンケート日時：令和2年11月24日)

表2 「主体的な学び」についての職員アンケート

	主体的な学びについて	7月	11月
1	興味や関心を持って作業学習に取り組んでいる	7.2	7.2
2	作業学習の意義を卒業後の進路と結び付けている	5.4	6.7
3	自分の取り組む作業や役割を理解し作業に取り組んでいる	7.0	8.2
4	自分の役割を果たそうとする責任感がある	7.0	8.1
5	教師の指示がなくてもやるべきことやるべき作業に一人で取り組むことができる	5.8	7.3
6	途中で作業を投げ出さず、粘り強く作業に取り組むことができる	7.8	8.9
7	毎時間具体的な目標を定めて作業に取り組んでいる	8.9	9.2
8	毎時間自分の目標が達成できたか、自分の課題は何か振り返ることができる	7.7	8.1
9	自分の目標達成を目指し、向上心を持って取り組んでいる。	7.6	7.3
10	自分の得意な作業を理解していて意欲的に取り組んでいる。	7.1	7.7

アンケートの結果から比較すると「主体的な学びについて」での1項目以外は上昇の評価になっており、特に5「教師の指示がなくてもやるべきこと、やるべき作業に一人で取り組むことができる」では1.5ポイントも上昇している。自分のやるべき作業を理解し取り組むことができている評価となっている。(表2)

表3 「対話的な学び」についてのアンケート

	対話的な学びについて	7月	11月
1	自分の作業態度の課題点を見つけ、その解決方法を考えている	5.9	6.4
2	他の生徒と協力する場面でどのようにしたら効率よくできるか考えている	4.8	6.4
3	他の生徒と協力する場面で自分の役割を理解している	6.4	6.6

4	他の生徒に作業内容を教えたり、聞いたりして学びながら作業を行っている	5.1	6.2
5	教師のアドバイスや指示を受け入れ、改善に取り組むことができる	7.2	7.7
6	販売会等を想定し、購入してくれることを意識しながら作成している	5.6	7.3
7	自分に作成した製品についてよかった点を述べるができる	4.8	6.5

「対話的な学びについて」では7項目すべての項目で上昇がみられ、周囲の生徒と協力、対話、学びあいながら作業に取り組むといった成果が表れている。特に2「他の生徒と協力する場面でどのようにしたら効率よくできるか考えている」では1.6ポイントの伸びが見られ、周囲と協力、対話を行いながらどのように行えば作業が進むか考える生徒が増えている結果が伺える（図2）

表4 「深い学び」についての職員アンケート

深い学びについて		7月	11月
1	勤労の意義（働いて生計を立てること、自己実現・社会貢献）を理解している	4.6	6.2
2	言葉遣いやあいさつ、身だしなみなど基本行動を意識し取り組んでいるか	6.2	7.4
3	知り得たこと（作業学習）を次に機会で生かそうと考えて取り組んでいるか	5.7	7.1
4	自分で新しいことに挑戦しようという意欲や教師への相談が見られるか	5.1	6.6
5	将来の自分の仕事を考えて、作業学習に取り組むことができているか	5.2	5.5

「深い学びについて」でも5項目すべての項目で上昇がみられた。（図3）。

個人目標を設定することで、自分から意欲的に行動しようとする意欲や態度が見られたことがこの3つの結果からうかがえる。

各作業学習班でも達成目標を教諭と確認することで、「今日やるべきこと」が理解でき、集中して作業に取り組めることにつながった。終了後の振り返りでは今日の目標達成度を青、黄、赤で個人目標達成表に示すことで今日の自分の成果を担当と確認することができ、その中から次回の目標や課題も見出せることにつながった。生徒自身が個人目標達成表を確認することで自分が評価されていることを実感し、次も頑張ろうという気持ちを持つことができつつあることが伺える。

2 自己評価と他者評価を比べ、自己理解に努め、自分の課題を理解し、改善に努めるための工夫をすることで主体性が増すであろう

実習先評価では前期実習と後期実習を比べて3年生20名中16名の生徒が上昇した。7月下旬に行った前期実習後の自己評価と実習先評価を比較することで自分の課題を理解し、改善・克服するための手だてを各作業班での目標設定、活動内容、振り返り等で自分自身の課題として目標に挙げ取り組むことが結果につながったとも考えられる。

表5 生徒Aの自己評価と実習先評価

生徒A	自己評価		実習先評価 (同一場所)	
	前期	後期	前期	後期
身だしなみ	4	5	5	5
あいさつ	4	3	4	4
言葉遣い	3	5	5	5
報告・質問	3	3	4	4
対人関係	3	2	4	4
指示を受ける態度	3	5	5	5
責任感	1	5	5	5
積極性	2	5	3	5
集中力	2	5	4	4
体力	2	4	3	3
確実性	2	4	4	4
巧緻性(細かさ)	2	3	3	3
指示の理解力	5	5	5	5
準備後片付け	2	2	4	4
安全性	5	5	4	5
合計点	43	60	62	65

生徒Aの自己評価と実習先評価(表4)を比較すると、実習先評価では「積極性」2ポイント、「安全性」1ポイントが前期実習より伸びているのに対し自己評価も「積極性」「安全性」は実習先評価と同じ数値になっている。また自己評価では「言葉遣い」「指示を受ける態度」「責任感」「積極性」「集中力」「体力」「確実性」が上昇しており、前期実習に比べ17ポイントも上昇し、後期実習での自己評価60に対し、実習先評価65と近い値になっている。

前期実習での自己評価43、実習先評価62から比べると後期実習でかなり自信がついたことがうかがえる。前期実習と同じ実習先であったこともあり安心して実習に臨めたことも自己評価が上昇した一因となっている。また作業学習では、自分のできる活動を増やすことを目的の一つ一つの作業を担当

教諭と対話を行いながら進めることで「確実性」が増し、確実にできる作業活動から「集中力」が増え、「積極的」に行える作業が増えたことで自信となりその結果自己評価が伸びたことにつながるのではないか。

今回の3年生の実習での自己評価は、前期実習と後期実習では後期実習の自己評価が20名中12名が低下する結果となった。生徒自身が自己評価で前期実習後から就労や仕事を意識することで更なる向上心を持ち取り組みたいという主体性をもって行動しようとする表れであると分析する。その結果各作業班でも意欲的に行動できる生徒が増え、自分で目標設定や今日の活動の反省を発表するなど意欲的な態度が見られるようになったと考えられる。

今年度から各作業班で統一して取り組みを行っている個人目標設定、作業活動、振り返りを毎回行うことで生徒がより意識して活動に取り組み、毎回行う自己評価で自己を見つめなおす時間を設けることで少しずつであるが自己理解につながっているといえる。生徒自身が自分の評価に自信を持って行える活動を今後も目指していくことが大事である。

II 課題

- 1 作業学習で取り組んだ内容等を各教科等でも生かせる部分は取り入れ、授業でよりキャリア発達を意識した取り組みを行う。
- 2 作業学習は「合わせた指導」であるため、各教科等の目標や内容等の位置づけを明確にする。